

# 清末小説から 102

2011.7.1

呉禱の漢訳ゴーリキー(下).....樽本照雄 1

《虎口餘生》の原作.....渡辺浩司 8

晩清小説作者掃描(貳拾柒).....武 禔15

『清末民初小説目録』第4版問答(上).....樽本照雄17

清末小説から8 / 14 / 26

東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます 『清末民初小説目録』第4版(CD-ROM 1枚)を刊行しました。複写自由です。研究の役に立てばさいわいです

清末小説研究会 日本〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 8番4-202 樽本照雄方

呉禱の漢訳ゴーリキー(下)

樽本照雄

カインとアルチョムを結びつけることになった暴力事件がおきる。痛飲して女の家に行く途中でアルチョムが集団に襲われたのだ。

【二葉亭】一日例の悪戯、それに伴ふ暴飲が有つた拳句、女に連ら

れて其家へシケ込まうと、町外れの狭い寂寥い小路を蹣跚しながら行くと、.....233頁

【呉禱】這一天他照旧做那悪戯。又将酒痛飲一番。喝得大醉。帶著那婦人結伴。到婦人家中。在那鎮外一条狭窄寂寥的小路上蹣跚而行。15頁

その日例の悪戯をいつものようにやらかすと、酒を痛飲したあげく大いに酔っ払った。女を連れてその家に行こうと町はずれの狭い淋しい小路をふらふらしながら行く。

二葉亭訳にあるとおり「シケ込」むのだからそういう意味だ。しかし、呉禱はこの箇所については削除をするつもりはなかった。日本語の「シケ込」むという表現を単に女の家に行くとした。外れて

いるというわけではない。こう見ると、大きく省略した前述の箇所は、やはり逢い引きに子供が絡んで登場するのを嫌ったからかもしれない。

アルチョムは暴漢たちに襲われて死ぬほどの目にあわされうち捨てられた。それを助けて介抱したのがカインである。

二葉亭の日本語訳には記号「」を使用してセリフを書き分ける。呉構訳は、途中までそれを取り入れた。ところが、中国語の習慣にあわないと考えたのかカッコの使用を基本的に中止してしまう。アルチョムが袋叩きにあって身動きできない状態のままにあり、世話をしてくれたのがカインであることに気づいた場面だ。

【二葉亭】「カインのお老爺か？ うゝ、お前か。」 / 「あゝ、私だよ……」 / 「然うか、お前が先刻から其処に居たゞか。己ア誰だかと思つたら、お前だつたか。余程奇異た老爺だなア！ まア、一寸此処へ来う。」 237頁

【呉構】連忙叫道。加英爺爺麼？ 哦哦、你老麼。那人答道。啊啊、我咧……夏爾登道。恁地麼。你老打先前就在這裏麼。我道是誰。原來是你麼。真是十分奇怪的爺爺啊！嗎、且來到這裏。19頁

急いでいう。カインのじじいか。うう、お前か。そいつは答える。ああ、あっしだよ……。アルチョムはいう。そいじゃお前が先刻からそこに居ただか。誰だかと思っ

たら、お前だったか。よほどとぼけたじじいだな。まあ、ちょっとここへきな。

日本語の改行は「 / 」で示した。呉構がカッコのかわりに「道[いう]」を使用するのは普通の中国文だ。その方が読者にはなじみだという彼の考えだったのである。本作品では、最初部分が例外であって途中から最後までカッコを使うことはなかった。

ユダヤ人でもロシア人と同じ人間だ、ユダヤ人だといってなぜいじめられなくてはならないのか。カインの言葉にアルチョムは返答できない。そこでこれ以後、アルチョムはカインの庇護者となる。アルチョムがその転換時に口にするセリフの一部はこうだ。

【二葉亭】……己アお前の身体に指一本でも触るめえ……若しかヒヨツト他の奴等がお前を如何ぞしたゞら、己が打挫いてくれべえ。 239頁

カインをいじめていたのをアルチョムはやめるといふ。しかも、他人が手を出せばやっつけてやる、とも。カインにとっては頼もしい言葉である。

ところが、なんでもなさそうなこのセリフを呉構は誤解してしまった。ちょっとした箇所なのだ。

【呉構】……我再不將一個手指。觸犯到你身体上来。……倘然忽芝

特和別的人等。怎樣委曲於你。我就替你抱個不平。將他們挫打。20頁  
.....俺は2度とお前の身体に指一本でも触らねえ.....もしかヒヨツトとほかのやつらがお前をなんぞしたら、俺がお前のためにそいつらをぶっくじいてやらあ。

二葉亭がカタカナで示した「ヒヨツト」は、いうまでもなく副詞だ。しかし、呉禰はロシア人の名前だと誤解した。カタカナで表記されているのが原因だと思う。ロシア語にもとづいた二葉亭の日本語を、さらに呉禰が重訳するから勘違いもするだろう。

2回目の比較的大きな削除がある。『太陽』掲載初出94頁上段の6行、下段全部の21行、95頁上段17行の全44行だ。これもほぼ1頁強になる。その内容は、こうだ。アルチョムは誰彼みさかいなく殴っている。カインが殴られるのは彼がユダヤ人であるというのが理由ではない。アルチョムにはユダヤ人を差別するという考えがない。それでカインはアルチョムのことを好きなのだという。これがカインから見たアルチョムである。

カインが告白する箇所を部分的に引用しよう。

【二葉亭】(前略)だから私ア然う思ふんだ、親方ア何も私が猶太人だからツて殴打なさるンぢやねえ、親方から見りや、私も他の奴等も同じ事なんだ、私の方が好いつて訳もねえが、皆と同じ浮世を渡つ

てる人間だから、それで殴打なさるンだ、トかう思ふモンだからね、私ア今迄親方ア可怖が好きだつた。(後略) 239頁

【呉禰】削除

この作品は、ロシアに存在するユダヤ人差別を問題にしている。だから、アルチョムにその差別をする気がない(あくまでもカインから見ただが)というのは重要部分ということになる。そこを削除してしまうのは、作品の主旨を理解していないことになりかねない。

3回目の削除は小さいながらそれに続く部分にある。『太陽』掲載初出95頁下段14行だ。すべてがカインのセリフである。その内容は、アルチョムの怪力に惚れ込んでいるから神さまにお願いして自分の守り本尊になってほしい。つまり、他人の暴力から自分を守ってほしいとアルチョムに懇願している。それには前提、あるいはきっかけがある。袋叩きにあったアルチョムを介抱したことだ。また、救助の手を差しのべたのはカインひとりだけだったという事情もある。

4回目の省略がある。『太陽』掲載初出97頁で全16行。アルチョムが、襲われて袋叩きにあったのは女のせいだ、と罵る。カインは女に生まれなかったお礼を神さまに祈ると追隨していう。アルチョムは、それをまた否定して女をほめる。アルチョムの身体にウォト力を塗り込めるという治療をしながらふたりが会話をする場面だ。相手の言うことに話を合わせるだけのカインである。彼の主体性の

なさが浮き上がってくるのだが、呉禱は unnecessaryな会話だと考えたらしい。

以上が二葉亭訳全5章のうち3章までの内容とその漢訳である。

呉禱訳は『東方雑誌』第1-2期連載でページ番号は通して22頁まで来た。次は23頁でなければならない。ところが、継続している第4章のページ番号は17頁になっている。連載が終了するまで訂正されることはなかった。細かいことだが指摘しておく。

1ヵ月後、傷の癒えたアルチョムは、シハンの町にもどって来た。居酒屋に入ってカインが来ていないかさがす。座っていた「ボ口婿さん」と呼ばれる男がアルチョムの話し相手になる。姿が見えなかったのは身体が悪かったのか、などとぼけて様子をさぐる。アルチョムもわかっているからけんか腰で対応する。ふたりの会話だけでポンポンと調子よく話を運んでいる場面だ。そこにカインが現われる。アルチョムは、ボ口婿さんにあっちへ行けと命じる。そのセリフは、こうだ。

【二葉亭】(アルテムは)婿さんには嘲ける如く、/「手前彼方へ去る。邪魔になるだア。」249頁

命令形であるし、またカッコの使い方からして発言主がアルチョムであることは明らかだ。ところが、呉禱はどうしたことかそれを次のように翻訳した。

【呉禱】襤褸女婿好似譏嘲著道。

我往那边去。免得阻碍你们。20頁

ボ口婿さんは、まるであざけるように言った。おれはあっちへ行かあ。じゃましちゃ悪いからな。

アルチョムのセリフをボ口婿さんがいったことにした。「婿」と「嘲」を結びつけた。つまり、「嘲」の動作主を「婿」にしたわけ。「手前」は、自称にも使うし相手をよぶばあいもある。それに加えて「去」と「邪魔」だ。呉禱は、二葉亭訳の漢字を拾って翻訳したらしい。前後の文脈を見てはいるが、漢字頼みだからややもすれば想像にもとづいた作文になる。人物を取り違えてしまった。

なんともいうように、これも小さな勘違いにすぎない。原文とは違う人物だったとしても、作品の大筋には影響しない。ただし、呉禱の日本語能力を知るための材料にはなる。

アルチョムはカインに彼の庇護者となることを約束した。それを周囲の人々に知らせるために、彼はボ口婿たちにむかってどなる。

【二葉亭】大方己が猶太人と朋友交際して、汝を追払つたのが癪に触るだんべえがの。かう、能く耳の穴を搔鑿て聴きやがれ、彼老爺はな、猶太人だとツて汝等の如な極道でねえぞ！ 深切氣が有るだいい……(中略)……何が何でい……今日から老爺の身体は己が引受けた。何奴でも此奴でも、老爺に指でも差して見る 己が承知しね

え！ 毆打ばかりぢや我慢出来ねえ、一寸試し五分試しにしるから、其積でけつかれい！……250頁

【呉構】老实对你們講。俺老爺素来愛和猶太人結交来往。這個。你須掏空了耳朵。細細的聽。那位老爺麼。雖則是猶太人。却還不似你們那樣窮兇無賴！很有些親熱之情。……（中略）……怎麼樣。這是為何。……從今兒起。那老爺的身体。俺老爺一人承当。不論張三。不論李四。但有誰將指頭向他一指。俺可就不答应！惟有看老爺的老拳。老爺須不能含糊忍耐。一寸便長。五分便短。且試試瞧。你們打定了主意。不要慌！……21-22頁

われらに言うておくぞ。おらさまはあのユダヤ人とかねがね友達づきあいをするのが好きだんべえがの。こう、よく耳の穴をかっばじって聞きゃあがれ。あのじじいはな、ユダヤ人だといってわれらのような極道でねえぞ！親切気があるだい……（中略）……何だと。何でい……今日からじじいの身体はおらさまが引き受けた。どいつでもこいつでもじじいに指でもさして見ろ、おらが承知しねえ！ひっぱたいてやるだけじゃおらは我慢できねえ、切り刻んでやるから試してけつかれ。われらは腹を決めて慌てるでねえ！……

この部分の漢訳は重要だ。アルチョムがユダヤ人に対して偏見を持たないこと

を述べているからだ。しかも、それを周囲に宣告している。前出2回目の省略を思い出してほしい。そこではカインの口からアルチョムに対ユダヤ人差別感がないことを説明していた。そこを削除したからそれを補う意味でも上の引用部分は重要となる。また、翻訳についていえば、二葉亭の訳文をほぼそのままに漢訳していることも理解できるだろう。呉構の訳文は普通に見てよい仕上がりだからこそ、それ以外の少しの勘違いが目立つということでもある。

ゴーリキーは、この作品においてロシアにユダヤ人差別があることを書いている。問題が複雑なのは、差別されているカインがその原因について自ら疑っているのではないからだ。カイン自身が差別されることを容認している。たとえば、つぎの言葉だ。「神様が私を苛めて居さつしやるんだよ、親方」（254頁）「神主却要懲罰我咧。老爺（神様があつしをいじめていさつしやるだよ、親方）」（26頁）。神に罰せられているのであれば、人間にはどうしようもないことになる。

また、アルチョムにも問題はあつた。差別感がないと思つたのはカインの判断だつた（呉構訳では省略されている）。また、ポロ婿さんたちに向かつてユダヤ人の保護者であると宣言もした。表面上だけを見れば、アルチョムには対ユダヤ人差別感はない。しかし、意識の底には別のもつがある。たとえば、カインに女房子供がいることを聞いたアルチョムはこう思う。「世に猶太人などを懐ふ女もあらう

かと、不思議に思つて(後略)」(254頁)「心裏却暗想世間上也還有愛恋猶太人的婦女麼。很為詫異稀奇(世の中にユダヤ人を好きになる女がいるのかと心ではひそかに考えて、不思議に思った)」(26頁)。アルチョムは心の奥底では、やはりユダヤ人を蔑視している。実際の行動でカインの庇護者となったアルチョムは、奥底にひそむ意識との分裂に悩まされるようになるのだ。

最終章である第5章は、それから1ヵ月後のことだ。

ユダヤ人カインがいじめられることは、なくなった。アルチョムのおどし文句のおかげだ。ある日、出会ったアルチョムが浮かぬ顔をしてカインを呼び止める。以後、アルチョムはカインとつきあわない、と言いつ出す。これ以上、守ってやらないと言いつ渡すのだ。アルチョムにとっての鍵語は「柄に無え」だ。アルチョムは「厭だ」という。カインが「何が厭なツたんで？」と問いかける。

二葉亭訳と呉禱訳を並べる。

【二葉亭】「何がとつて、此様な事ア柄に無えだもの。己アもう厭だ。」261頁

【呉禱】為何。從沒有這樣的。俺啊。如今厭恨了。32頁

何がとつて、こんな事あ今までなかった。おら、もう厭だ。

「柄に無え」とはアルチョムの性格を表わしたことばだ。その肝心の説明を「こんな事あ今までなかった」にしてし

まった。これも日本語の漢字を拾って漢訳しようとしたために生じたのだろう。

【二葉亭】己アお前と交際たく無えだ。此様な事ア己の柄に無え。(同上)

【呉禱】俺和你不能再為交往。這樣的。俺從今再也不能担受。(同上)

おらお前とはつきあうことあできねえだ。こんな事あ、もうこれ以上耐えきれねえ。

原文の「柄に無え」は、呉禱の漢訳「不能担受[耐えきれねえ]」とは内容からいってまったく別物ではないにしても、やはりそのままではない。

アルチョムのいう「柄に無え」の内容は、あとで彼自身が説明する。

【二葉亭】己ア人の事を気の毒だなんぞつて思ふ事出来ねえ性分だと思へ。(同上)

【呉禱】就不能再将別人的事。搜索出妙法来。(33頁)

人の事に、うまい方法を探すとなんぞできねえ。

他人のことを心配するような性格ではもとからない、というアルチョムの自己判定である。事の成り行きでカインを庇護することにはなった。しかし、そういうことをする性格の人間ではない。そう自覚している。これが「柄に無え」というセリフによって表現されているのだ。

文脈によって漢訳している呉禱の訳文は、意味からすれば原文を大きくはずれてはいない。ただ、鍵語である「柄に無え」に統一した訳語を与えることができなかった。惜しいと思う。

カインはしおれてアルチョムにたずねる。アルチョムが自分を見放すのは、ユダヤ人だからか。

【二葉亭】猶太が何だア？ 皆吾儕ア神様の前を出りや、猶太でねえか。(262頁)

【呉禱】猶太。怎麼樣啊？我輩到神主之前。不是和猶太人一般無二嗎？(33頁)

ユダヤが何だ。こちとら神様の前に出りゃユダヤ人と同じでねえか。

アルチョムが口走ったのは、神様の前ではユダヤ人もなにもない、互いに同一の存在だということだ。これもアルチョムの心理を述べている。ただし、心の浅い部分でしかない。

他人との交際を遮断しているアルチョムにとって、相手がユダヤ人であろうとなかろうと誰かの庇護者になるというのは自分の性格にあわない。アルチョムはそう感じている。なぜそう思うにいたったのか。アルチョムが深いところではやはりユダヤ人に対して偏見を持っていることは前述した。それとユダヤ人とは平等だという心理が衝突した。結果として、深層心理がまさった。それが「柄に無え」ということばに凝縮したらしい。

アルチョムの庇護を失ったカインは、アルチョムを残しひとりこそこそとその場を去っていく。カインの平穩は、こうして短期間のうちに終ってしまった。

ロシアにおけるユダヤ人差別をあつかったゴーリキーの作品だ。差別の事実を社会に示すためには、カインがユダヤ人でなければならなかった。

## 結 論

本稿冒頭で紹介した。陳建華は、呉禱の翻訳を「原作を書き換えあるいは手を加えることがとても多く」という作品群に分類した。訳例を示してまるで彼の翻訳全体が翻案であるかのように書いたのだった。だが、本稿で検討した呉禱の漢訳は、そのようにでたらめなものではない。

呉禱の翻訳は、基本的に日本語訳文に忠実な白話訳だと私は判断する。原文に関係なく勝手に加筆する、あるいは話の筋を大きく変更する部分は、もともと存在しない。それは強調してもいい。ゴーリキーの原作を二葉亭の日本語訳を経由させてうまく漢訳していると私は考える。時代を考えても群を抜いた翻訳水準であるということに躊躇しない。しかもロシアにおけるユダヤ人差別を問題にした作品なのだ。呉禱訳の角書にある「種族小説」は人種差別をあつかう小説という意味だ。早くに、(美)斯土活(ストウ)著、林紓、魏易同訳「黒奴籟天録」(1901年)が出た。それとあわせ考えても当時では珍しい部類にはいる。呉禱のこの角書「種族小説」に注目すれば、これは清末

時期では唯一の表示だ。民国になって新聞小説に1篇だけ見える。それくらい希少価値がある。当時であってどのように読者に受け止められたであろうか。具体的な言及があったかどうかは知らない。だが、阿英らが、ロシア文学を紹介した功績に対して呉禱に高い評価を与えたのは当然のことだった。

最後に、翻訳という点から少しつけくわえよう。どうしても彼呉禱の漢訳チェーホフと比較してしまう。本ゴーリキーの翻訳では、勘違いがいくつかあるし、比較的大きな削除が目につく。物語の大筋にはそれほど影響を及ぼさない。だが、その削除はゴーリキー作品の主題に関連した箇所を少しだけ含んでいる。わずかではあるがその点を残念に思う。 罫

【参考】赤尾光春「帝政末期におけるロシア作家のユダヤ人擁護活動 ソロヴィヨフ、トルストイ、ゴーリキー、コロレンコを事例として」『ロシア語ロシア文学研究』39 2007電字版

『包天笑『釧影樓回憶録』訳注』第1冊  
武田雅哉代表 『釧影樓回憶録』訳注プロジェクト2011.3.20

范伯群主編『周瘦鵑文集』1小説卷  
上海・文匯出版社2011.1

(『周瘦鵑文集』)周瘦鵑論(代前言)…范 伯群  
(『周瘦鵑文集』)周瘦鵑年譜……范伯群、周全  
(『周瘦鵑文集』)後記 ………周 全

《虎口餘生》の原作

渡 辺 浩 司

1

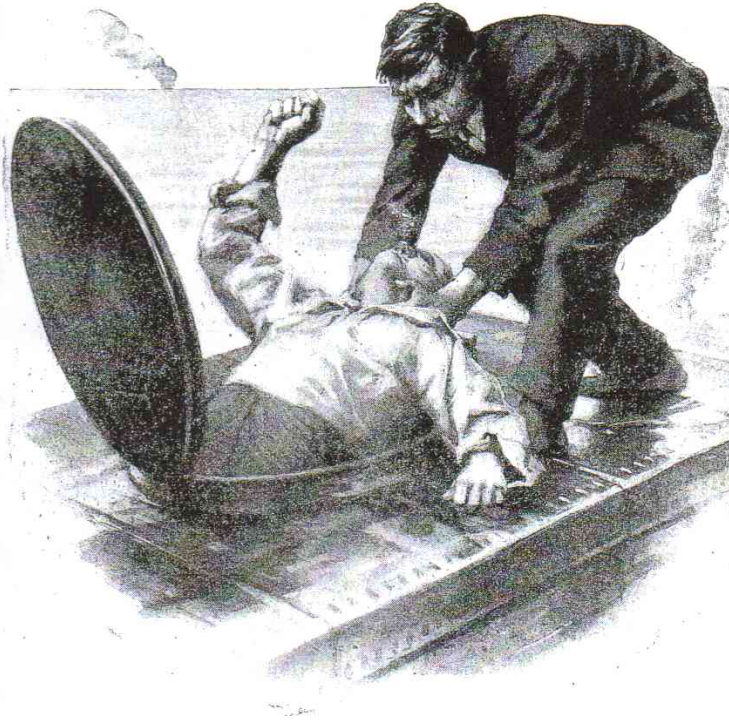
《小説月報》第九卷第十二号(商務印書館,1918年12月25日-東豊書店1979年10月影印《小説月報 自創刊號起至廿二卷十二期止》を使用,影印本は奥付が無く,発行年月日は『清末民初小説目録 第4版』(樽本照雄編,2011年3月31日)による)に、君珊(訳)《虎口餘生》なる短篇作品が掲載された。書名下に“譯海濱雜誌”とあるので、『The Strand Magazine』から訳されたことはわかる。この度、原作名・原作者・掲載号が判明したので、本稿で報告する。

原作名は『A Plain Man』、原作者はJ.Sackville Martin、掲載は『The Strand Magazine』Vol.54-No.323(1917年11月)であった。

原作者James Sackville Martinはイギリス人で、1874年生、卒年不明。医者でもあったようなので、職業作家かどうかは不明。British Libraryの蔵書検索では、詩集・劇作が5冊あり、小説は見られなかった。

訳者“君珊”は、高君珊で、生卒年未





"HE SEIZED THE MAN BY THE THROAT AND DRAGGED HIM BACKWARDS."

詳、原籍は福建・長楽、教育学者として燕京大学等に奉職していた。父は、晩清から民国期にかけて著名な教育家であった高鳳謙。

2

『A Plain Man』のあらすじを述べる。

John Gosforthは貨物船を航行させている時、魚雷に沈められ、北海に投げ出された。水は冷たく、いつまで浮かんでいられるか、救助はあるのか、このまま死ねば妻子はどうなるのか等と考え、できる限り泳ごうと思った。

その時、下から潜水艦が浮上してきた。彼はしがみついて、自分の船を沈めた艦だと確信した。船体には「U16」の文字があり、同型を写真で見たことがあった

ので、ドイツ軍だと考え、助かっても捕虜になるのかと思った。艦は海上に姿を現した。彼が周囲を見回すと、北方にかすかな煙が見え、救援かも知れないと思ったので、艦の乗降口を開かなくして、損害を与えてやろうと考えた。しかし、外側には取っ手も何も無く、仕方なく、何かあるかも知れないと思いつつ、自分の存在をノックで中に知らせようとした。

ちょうど運よく、乗降口が開き、男の頭と肩が現れた。彼は背の方にいたので、気付かれず、すぐに男の首を捕えた。男は抵抗できず、彼は男を抑えてしまった。乗降口の下では、男を引っ張ったり、逆に押し出そうとしたりと試みたが、彼は男をしっかりとつかみ、何もさせなかった。下からは怒声が上がっていたが、そ

のうち、「君は誰だ？」等と、はっきりと英語で声がかかった。彼は戸惑ったが、自分はイギリス人だと答えた。下からは「我々もイギリス人だ」等と返ってきた。外国なまりは無く、彼は驚きつつ、自分のような普通の人を騙すくらいの英語を話す奴もいるだろう、まずこの男が英語を話せるか確かめたいと言った。しかし、彼は手を緩めたが、男は気絶していた。下からは「どうして信じないのか？」等と声がかかったので、彼は、自分の船を沈めたし、船体に「U」が書いてあるからだと言った。下からは、自分たちは船を沈めていないし、この艦はドイツ軍から奪ったもので、罔にして別の潜水艦を捕えようとの辺りを航行していた等と言ってきた。彼はどうしようか迷っていた。北方には駆逐艦が見えていたが、ここまで来ないかも知れず、下からの話は説得力のあるものだった。彼は、自分は普通の人だから騙さないでくれと言ひ、どうすればいいのか尋ねた。下からは、男を解放して中に入って来るよう言ってきた。彼は言われたとおりに、男を放し、下りてみると、明らかにイギリス人ではない男たちに囲まれ、捕虜となってしまう。艦長らしき服装の男が彼を見て、副官にドイツ語で何か話すと、副官は彼に向かい、沈められた船名や積荷等を英語で尋ねてきた。彼は、自分の船で、石炭を積んでNewcastleへ向かっていたと答えたが、これ以上は何も話さないと断った。副官はどこから来たのかを尋ね、脅しを加えたが、彼は答えず、駆逐艦のことを考えた。副官がそれを伝

えると、艦長は何か言った。副官は彼に、海に放り出すことになるので考え直すよう言った。彼は落ち着いて、どのみち答えられない質問が来るだろうし、誘導尋問にはめられるかも知れないと考え、考え直すことは何も無い等と答えた。副官は梯子を上って行ったが、興奮してドイツ語でしゃべりながらすぐに戻って来た。艦長は潜望鏡に飛びつき、各人はそれぞれの持ち場に走り、残りは彼を捕まえている2人になり、艦は潜水を始めた。彼の前には、数人が魚雷発射管に就き、艦長を見ていた。副官が彼のそばを通る時、駆逐艦だ等と告げた。艦長が命令を出し、魚雷発射管の数人が身構えたので、彼にも状況がわかった。彼を捕まえている2人も緊迫の下で、その手が緩んでいた。彼はその手を振り払い、足下にあったボルトを持って、潜望鏡へ突進し、艦長らに殴りかかった。乗員5人がかりで彼を取り囲んだ。彼は抵抗する間、潜望鏡から駆逐艦の姿やそこからの白い煙を見た。そして、何も見えなくなり、みんな床に倒れた。

駆逐艦の攻撃で潜望鏡を失った潜水艦は浮上した。魚雷発射管に就く数人からは、自信に満ちた態度は失われていた。副官はまだ、機会があれば、一発食らわしてやる等と言っていた。しかし、駆逐艦は警戒して、浮上した潜水艦に銃撃を浴びせ、潜水艦は浸水し始めた。艦長は脱出を命令し、乗員は次々と梯子を上がり、最後は彼だった。彼が外に出た時、駆逐艦は沈み始めた潜水艦の周りを回っていた。潜水艦の乗員は両手を挙げ、

次々に駆逐艦に移され、ここでも最後は彼だった。彼はうれしくて、駆逐艦の水兵の手を握った。水兵は最初、訳がわからなかったが、彼は、自分がイギリス人で、船を沈められ、潜水艦に捕まったことから話をした。駆逐艦の艦長は彼を称賛し、何が彼をそうさせたのか尋ねた。普通の人であるJohn Gosforthはよく考えて、言った：「貴方が愛国心だと思いたいなら、そう思って結構です。本当は、戦争が終わるまではドイツにいることになるだろうと思っていました。私は妻の所に帰りたかったのです。」

分量は6頁分あるが、絵が3枚含まれているので、実質は約4頁分で、短い作品である。船が沈められ、波間に浮いていたら、そこに潜水艦が浮上した。中から男が現れたが、背後にいたので気付かれず、その男を捕まえ、艦すべてを釘付けにし、時間を稼いだ。おかげで捕らわれの身になっても、味方の駆逐艦が間に合って、逆に潜水艦を沈め、誰も死なずに、乗員を捕虜にし、自らも救出され、称賛された。というような、とんでもない偶然が重なる物語である。

### 3

中国語訳について述べる。

タイトルが、原作は主人公を一言で表す「A Plain Man」(普通の人)とするのに対し、中国語訳は“虎口餘生”(危機からの生還)と内容を踏まえたものになっている。陳腐ではあるが、原作どおりに訳してもわかりにくいと訳者が考えたの

であろう。

内容は、所々に少し省略が見られるものの、しっかりと訳していると思う。冒頭を比較する。

When the ship went down beneath him the old cargo tramp which he had sailed so long and loved so well

John Gosforth experienced a feeling that was something far more than fear for himself something that was like the regret he might have felt at the loss of a very dear friend, or even a wife. But this little bit of sentiment did not last very long; for he was a plain man and little given to sentiment. It gave way, therefore, quickly enough to the stern realities of the position. The explosion had been a violent one. The ship had been torn in two. There had just been a milk-white track along which the torpedo had run, and then destruction. In less than two minutes he found himself struggling in the waters of the North Sea. (450頁左)

(船が自分の真下へと沈んでいった時 その船は古い不定期の貨物船で、彼が長い間、操船し、深い愛着を持つものだった John Gosforthは自分の中で恐怖とは程遠い何か

それは親友か、妻までも失った折に感じるかも知れない後悔のような何か、そんな感覚を体験していた。しかし、このほんのわずかの感傷的

な気持はそれほど長くは続かなかつた；というのも、彼は普通の人で、感傷にふけることはほとんどなかったからである。故に、すぐさま置かれている厳しい現実<sup>ママ</sup>に気持が移った。爆発は激しいものだった。船は二つに裂かれてしまった。魚雷が通った所には乳白色の線が一本あっただけで、そして破壊だった。2分足らずで彼は自分が北海の海域でもがいているのに気付いた。)

約翰各司夫正從容把舵之際。忽見海面一物。迅如飛隼。直造舟腹而來。深碧海水。成一白線。砰然一聲。而舟已洞穿。蓋爲潛水艇之魚雷所中也。已而舟漸沉漸下。隱海中深處。不可復見。約翰則臥於汪洋大海之中。隨波上下。生死不可知。然對於己身之安危。初不以爲意。惟十數年來朝夕相共之舟。一旦竟遭此厄。不能不爲之戚戚耳。約翰爲此舟之主人。歷有年所。戀戀之心。亦人之恒情。第約翰性情篤厚。目睹此舟之亡。如摧肺肝。有類人之失其良友。喪其愛妻。幸素性善忘。而戚戚之念。瞬息即渺。憂思既息。始恍然悟己身之在北海洪濤中。此時張目一視。則一片汪洋。渺無涯埃。波浪澎湃。己身亦隨之起伏不已。(1頁上,句点は原文のまま,以下同)

(約翰各司夫はちょうどゆったりと舵をとっている時、突然、海面にある物が現れ、ハヤブサのようにすばやく、まっすぐに船の側面にやって

来た。濃い緑の海に一本の白線が通り、ボンと音が上がるや、船は穴を開けられた。潜水艦の魚雷が命中したのである。船はすでに沈んでいき、海中に没し、二度と会えなくなっていた。約翰は大海原に浮かび、波で上下し、今後の生死はわからなかった。しかし、自身の安否は全く意に介さず、ただ、十数年、朝夕を共にした船が、今日災難に遭ってしまったことで、悲しまずにはいられなかった。約翰はこの船の主として長きにわたっており、名残惜しむ気持も人の不変のものである。約翰は篤実で、船の沈没を目にし、内蔵をえぐられるようで、まるで親友を失い、愛妻を亡くしたかのようであった。幸いにして、気持の切り替えがそもそも早く、悲しみの気持はすぐにわずかになり、憂いの気持も止んだ。そしてようやく自身が北海の荒波の中にいることにはっと気付いた。今、見てみると、大海原で、陸地はかけらも無く、波がぶつかり合い、自身もそれと共にずっと上下していた。)

原作は、いきなり主人公の状況を述べ、何が起こったのかを後回しにしている。一方、中国語訳は、時間順に加筆説明しながらの叙述に変えている。この種の改訳はよく見られる。ただ、主人公の気持が船の喪失から自身の現状に移ったのを“素性善忘”のせいにするのは改め過ぎだと思う。

もう一例、冒頭と同じく、題名にもなっている「a plain man」が使われる部分を挙げる。潜水艦が駆逐艦の接近に気付いた場面である。

Then there fell a silence. Nothing could be heard but the purr of the motors that drove the boat along. The men's faces looked strained in the clear electric light. At the periscope the commander and the lieutenant stood, intent and watchful. At last there came a sharp word of command. The men by the torpedo-tube sprang to attention. John Gosforth saw that the moment was at hand. He could bear it no longer. He was a plain man and saw his duty plainly. His eye travelled to a steel bolt that lay at his feet. The tension of the moment had had its effect on the men who were guarding him. They held him slackly and their eyes were fixed upon the group about the torpedo-tube. By a violent effort he wrenched himself free. With a yell, he picked up the bolt and made for the periscope, striking out at the commander, at his lieutenant at everything he could reach in his excitement.(454頁左 - 右)

(その後、静かになった。艦を動かすモーターのうる音以外は何も聞かれなかった。明るい電灯の下で、男たちの顔は緊迫しているようだった。

た。潜望鏡の所では、艦長と副官がじっと注意深く(覗き込み)立っていた。ついに命令の鋭い一声が走った。魚雷発射管に就く男たちは準備の姿勢をとった。John Gosforthはその瞬間がすぐだと悟った。彼はもうじっとしていられなかった。彼は普通の人であり、普通に自らなすべきことがわかっていた。彼の目は足下に置いてある鋼鉄のボルトへと移った。その瞬間の緊張は彼を捕まえている男たちに影響していた。男たちが彼をつかむ手は緩んでおり、目は魚雷発射管の一团に留まっていた。全力で彼は男たちを振りほどいた。叫び声と共に、彼はボルトを拾い上げ、潜望鏡へと向かい、艦長、副官、そして手の届く所、何にでも興奮して殴りかかった。)

時人人凝神斂氣。以待前敵。故艇中舍機聲砰砰外。無他聲響。約翰自燈光中見人人之面。皆靜肅無倫。艇長少佐。並立瞭望鏡前。用其全副精神。以圖進取。久之。艇長忽發一號令。司發射管者振作精神。舉手以待。約翰知大變即在俄頃間。躍躍然不能復忍。約翰雖戇直。然滿腔實貯愛國之熱忱。當此間不容髮之際。忽見一鐵錘在足畔。幸守者注其全神於發射管。疎其防備。約翰突然一躍而起。手執鐵錘。狂吼如牛。直向瞭望鏡而奔。跳躍東西。恣意攻擊。厥狀如癩。(5頁上 - 下)

(その時、人々は集中して敵の来る

のを待っていたので、艦内は機械のボンボンという音以外、何も聞こえなかった。約翰は明かりの下で人々の顔を見た。皆静まりかえり、艦長と少佐は潜望鏡の前に並び立ち、全神経を集中し、攻撃の準備をしていた。しばらくして艦長が突然、号令を発すると、魚雷発射管担当は勢いよく手を挙げて、待つ姿勢をとった。約翰は大事がすぐだとわかり、もうどうにも我慢できなかった。約翰は朴訥で一本気ではあるが、しかし国を愛する熱意が全身にみなぎっていた。この間一髪のに、ふと足下に鉄槌が一本あるのに気付いた。幸いに、彼を捕えている男たちは魚雷発射管に全く気をとられており、備えが甘くなっていた。約翰は突然、身を躍らせると、手に鉄槌を持ち、牛のように雄叫びを上げ、まっすぐ潜望鏡へと突進していった。右へ左へ跳びまわり、自在に殴打を加えた。その様は病気の発作のようだった。( )

原作は「a plain man」と「saw his duty plainly」を順接で結び、その後の英雄的行動へつないでいる。しかし、中国語訳は“ 戇直 ”と“ 滿腔實貯愛國之熱忱 ”を逆接で結びつけている。当時の中国では愚直と愛国心が両立しないとする見方もあったことがわかる面白い改訳だと思う。

4

原作が掲載された1917年は、第一次世

界大戦中で、ドイツ軍潜水艦による無差別攻撃が行われ、公海上でも非戦闘員が戦争に巻き込まれていた。原作は短篇であるが、普段は積極的に参加していなくても、戦争に臨んだ時には、身体が愛国的行動へと向かってしまう一般人を描いている。ただ、中国語訳では、「a plain man」を主人公の性格と捉えるだけで、非戦闘員としての側面が見えてこず、一般人にも身近なものになる戦争があまり感じられないように思う。中国語訳掲載が1918年12月で、すでに大戦が終わっていたことが、非戦闘員の戦争という面を薄めてしまった原因かもしれない。

【参考文献・ホームページ(HP)】

陳玉堂編著《中国近現代人物名号大辞典》浙江古籍出版社,1993年5月  
橋川時雄『中國文化界人物總鑑』中華法令編印館,1940年10月25日 名著普及会覆刻版,1982年3月20日,を使用  
William G.Contentto管理「The FictionMags Index」  
<http://www.philsp.com/homeville/FMI/0start.htm> (2011年3月25日確認)

『明清小説研究』2011年第1期

( 総第99期 ) 2011発行月日不記

試論晚清翻譯小説与林紘的貢獻 ..... 袁 進  
也談《品花宝鑑》的成書年代

兼論陳森的生卒年..... 姜秋菊

晚清小説作者扫描(貳拾柒)

武 禧

(一四一)

惜花主人

小説创作：《太虚幻境》《上海新繁华梦》

惜花主人：真实姓名待考。小説创作有《太虚幻境》《上海新繁华梦》，翻译有英国哈葛德《花月香城记》《劫花小乘》。1915年掣戡道人编辑《黛玉葬花曲本》有惜花主人题签。

(一四二)

乌程蛭园氏

小説创作：《邹谈一曝》《邹谈二曝》《表忠观》

费有容：生卒年不详。浙江湖州人。部分著作署名“吴兴费有容”，又署“乌程蛭园氏”。吴兴、乌程为古今地名异同，实为一地。民国时期曾经参加对《宋会要》的编辑工作。1931年姬觉弥总纂《汉译古兰经(三十卷一百十四章)》，由(英)欧司爱哈同等审定 费有容校勘。其它情况待考。创作小説有《邹谈一曝》《邹谈二曝》《表忠观》。

《邹谈一曝》1906年由启文出版社出版。启文社主人在该书《跋》中云“是书为乌程蛭园氏先生所撰。先生以著作才而又富于理想，有鉴于近日之小説汗牛充栋，欲求不落窠臼，出人意外而仍入人意中者实难其选。用是本平日见闻，参以读书心得，独辟蹊径，著为是书，名《邹谈一曝》，凡二十四回，借《孟子》中事实贯以新学，真觉匪夷所思，是为说部中放一异彩。”费有容还有许多其他著作《唐诗研究》、《尺牍成语辞典》《新函牍分类大全》、《经学作文正鹄初编》《言文对照小仓山房尺牍全编》等。

(一四三)

伤心人

小説创作：《铸错记》《俄皇宫中之人鬼》

麦梦华(1875-1915)：广东顺德人。字孺博，又字儒博。号驾孟、蟠庵、蜕庵。别署曼倩、曼殊、曼殊庵室主人、伤心人、佩弦生。室名计惶庵。《孽海花》一书中“麦化蒙”即影射麦梦华。1888年入广州学堂。1891年入万木草堂，成为康有为的忠实弟子。1893年与康有为同科中举。1895年春与康有为、梁启超一起进京应试。梁、麦同寓，时常“相与规划救国政略，并助南海先生奔走国事”。将订《马关条约》的消息传到北京后，受康有为嘱咐，鼓动在京各省举人上折拒和，参加“公车上书”。同年夏在康有为创办的《万国公报》任撰述和编辑。1897年与梁启超、汪康年等创不缠足会于上海，任董事，并为《时务

报》等撰写文章。主张“尊君权，抑民权”，意在变光绪帝为有绝对权力之皇帝。1898年春，与梁启超等联合两广、云贵、川陕、浙江等省举人上书，反对租让旅大给俄国。同年3月参加康有为等创立的保国会。戊戌政变后，逃亡日本，协助梁启超创办《清议报》。1899年梁启超奉康有为命赴檀香山进行保皇活动，其代梁主持该报，撰写320余篇宣扬保皇的文章，提倡学习日本维新，增强国力以救亡。曾代理东京高等大同学校校长。义和团运动兴起时，诬蔑起义群众为乱民，支持“东南互保”，号召南方督抚镇压义和团，起兵勤王，实行南北分治，要求各国合兵迎光绪复位。《辛丑条约》签订后，又为国权尽失、利源尽夺、无复和平、中国政府充当列强傀儡和奴隶，而感到忧愤不已。1902年任《新民丛报》撰述，1907年任政闻社常务员。1913年在康有为创办的《不忍》杂志任编辑。后充任冯国璋幕僚，“相与谋倒袁”。1915年2月25日死于上海。著作有小说《爱国弃妻记》、《薄命妇》（署名“天涯伤心人”）、《俄皇宫中之人鬼》（署名“曼殊庵主人”）《断肠花》。及有关资料所记录之《错铸记》。生平喜爱吟咏，词章绵丽沉郁，著有《蛻庵诗词》三卷，后为友人收入《粤两生集》。

笔者以为：《铸错记》一书所叙述内容几乎与历史事实相同。以今天的文体标准衡量，《铸错记》属于记实的“报告文学”而非小说。

(一四四)

符霖

小说创作：《禽海石》

符霖：待考。陈玉堂《中国近现代人物名号大辞典》解为“秦如华（咸丰至于光绪间）笔名符霖（著《禽海石》署名，光绪三十二年（1906）群学社刊）”。符霖是小说《禽海石》作者署名，陈玉堂先生解为“秦如华”，但是没有其它任何有关作者的介绍。《禽海石》是第一人称的小说作品。小说的主人公名“秦如华”。因此若以“我”名“秦如华”，因此作者就是“秦如华”则过于武断。但是从小说的《弁言》中可以肯定符霖阅读过谭嗣同有关“仁”学的著作，或者说阅读过谭嗣同的《仁学》则不为过。若符霖确实是秦如华，则根据《禽海石》本文，则可以了解作者的身世与一般情况。

(一四五)

遁庐

小说创作：《斯文变相》《当头棒》

遁庐：姓名等均待考。一说为清代戏曲作家。曾以“遁庐”为笔名发表《学生现行记》《斯文变相》《当头棒》《苏州新年》，传奇《童子军》。为欧阳钜源补撰传奇《维新梦》。

根据史书及人名词典等记录，中国鸦片战争后，有两人曾以“遁庐”为号，但是否就是《斯文变相》的作者则不能肯定。所知两人情况如下：

1、王人文(1863-1941)：字采臣，一字采丞，又字豹君，号遁庐。云南太和（大理）人。光绪十二（1886）年三甲第一百三十二名进士。宣统三（1911）年由四川布政使、护理总督改川滇边务大臣，为保路运动名臣；北洋政府任命其为农林



大臣，不受；1911年8月，国民党宣告成立，由孙文任理事长，黄兴、宋教仁、王人文、王芝祥等8人出任理事。民国后历任参议院议员、四川宣抚使等职。著有《辛亥四川路事罪言》《遁庐诗存》。

2、周梦虞(1865-1940年)：字桐崖，晚号遁庵，别号遁庐老人，福鼎县秦屿人。1884年府试中秀才。翌年，应省试中副举人。1888年任福鼎桐山书院山长。1901年改任桐山小学堂堂长。(1914年)，任桐山小学校长时，反对县公署知事赵士鹏将原桐山书院的“膏火”、“宾兴”两项学租据为“官俸”，竟被诬为惑众“匪首”，解省入狱。嗣由国会众议院议员朱腾芬出面干预，始得释放。后受聘为福宁中学学监。1917年，福宁中学改为省立第三中学，他被福建省教育厅委任为校长。任上，整顿校风，延请名师执教，校誉蒸蒸日上。嗣后，由于新旧派纠纷，遂呈请辞职。回鼎后，先后任劝学所学务总董、教育会长、教育课长。鉴于福鼎无中学，学生升学难，遂参与筹办私立北岭中学，任名誉董事长。热心于社会公益之事，诸如组织老人会、协修海堤、倡导改革婚丧喜庆陈俗等，无不悉力以赴。民国21-25年，主修《福鼎县志》(未正式出版)，并续编《北岭文献搜集》10卷，晚年加入广东“壶社”和江苏“虞社”。1940年逝世。有遗嘱云：“头可断，身可死，汉奸断不可为。抗战必胜，建国必成，但恨余不能及见。昔陆放翁云王师北定中原日，家祭无忘告乃翁，汝等须仿照办理为要。”其爱国之心至死不渝。逝后葬于秦屿渠口刘家山。生平著有《绿满窗诗草》、《遁庵诗文集》、《古雪斋集》、《遁园笔记》、《县名辨讹唱和集》等。

又有以“遁庐”名著作者二：

1、余重耀(1876-1954)：浙江诸暨人。字铁珊。著有《函雅庐诗文稿》、《阳明先生传纂》、《遁庐诗文集》。1951年4月，向浙江图书馆捐赠家藏1377册，碑帖486张，其中《遁庐丛稿》88册为白著手稿。

2、徐毓儒：湖北广水人。著有《遁庐诗草》。 罍

『清末民初小説目録』第4版問答(上)

第4版CDは自動的に起動する

問 樽本照雄編『清末民初小説目録』第4版がCD-ROMで刊行されました(清末小説研究会2011.3.1)。そのCD1枚に「ごあいさつ」が同封されています。その前半部分です。

「『清末民初小説目録』第4版(CD-ROM 1枚)をお届けします。ノ本目録は、個人電腦で利用することができます。ノその環境は、日本語版ウィンドウズ(MS Windows 2003)およびアドビ・リーダー(Adobe Reader。無料の閲覧ソフト。ネットからダウンロードが可能)です。インターネット用のソフト(インターネット・エクスプローラ、オペラ、クローム、ファイアフォックスなどのどれか1種類)もご用意下さい。以上で作動することは確認していま



すが、その他は、不明です」

文中にある「Windows 2003」というのはなん  
ででしょうか。

答 Windows XPの間違いです。不注意で誤る  
というのはいつものこと。連想から生じました。

問 それにしても旧版です。2世代前でしょう。  
現在は、Windows 7ではありませんか。

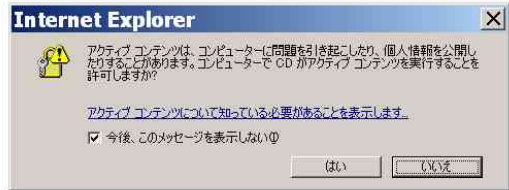
答 おっしゃる通り。年刊『清末小説』、季刊  
『清末小説から』の版下作成に使用しているの  
がワープロのワード2003です。自分をとりまく  
研究環境が変わるとわかった昨年秋でした。電  
脳本体を買い換えたのです。そのとき、使い慣  
れた旧版をわざわざ探しました。印刷するだけ  
ですから基本的な操作ができればいいと割り切  
っています。その2003に引きずられたところか  
らくる勘違いです。もうひとつ、こちらは実在  
するWindows 2000を使ったこともありましたが、  
本文とは関係のないことですが、文章作成は、  
別の無料エディタを快適に利用しています。

問 このたび刊行された目録第4版CDは、  
Windows XP以外では使えないのですか。

答 アドビ・リーダーさえ動けば、だいじょう  
ぶです。第4版はこのアドビ・リーダーを使用  
することが前提になっていますから。

問 目録全体の構成を教えてください。

答 目次をインターネット用のHTMLファイル  
で表示し、ここが入口になります。点撃して  
目的の場所に移動する。本体の目録は、基本的  
にPDFファイルだけです。少なくともアド  
ビ・リーダーを導入していれば目録本文と索引  
は動く、と。



問 「ごあいさつ」の後半です。

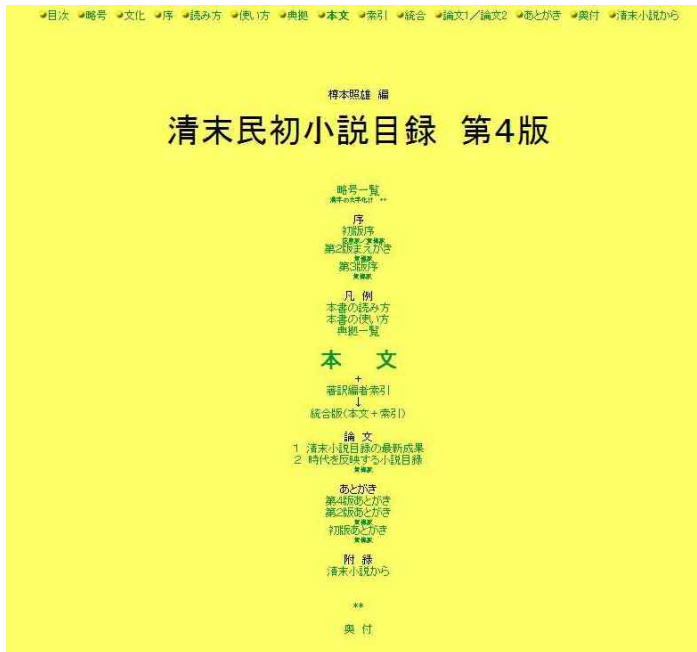
「操作方法は以下のとおり。 / 1 . C D - R  
OMを装置(トレイ)に挿入すれば自動的に作  
動するはずですが。 / 2 . 目次が表示されます。  
必要な箇所を点撃(クリック)してください。  
目的のものを表示するでしょう。 / 操作はそれ  
だけです」

そううまい具合に動くのでしょうか。

答 電脳2台とノート電脳を使用して試験をす  
ませています。ただ、インターネット・エクス  
プローラ(Internet Explorer)を使用するばあ  
い、次の警告(質問?)が最初に出てくること  
があります。

「セキュリティ保護のため.....」、あるい  
は「アクティブ コンテンツは、コンピューター  
に問題を引き起こしたり、個人情報を公開し  
たりすることがあります。コンピューターでC  
Dがアクティブ コンテンツを実行することを  
許可しますか?」です。それぞれの画面を参考  
までかかげました。

不愉快な文章です。自分が作成したファイル  
について機械が文句をつけるのですよ。注意を  
うながしているつもりでしょう。大多数の人が  
知らずに使っているソフトですからウイルス攻  
撃の対象になりやすい。そう想像はします。で  
すが、いらぬお世話ですね。下の「はい」を点



検索は自由自在

問 全文検索ができるそうですね。

答 第4版の特徴のひとつです。知りたい事柄について文字を入力するだけ。電腦がその箇所を表示します。作品名、著訳者、出版社などにもかもが検索対象に含まれる。

問 全文検索ができるということは、部分検索も可能だと考えていいですか。

答 不都合なのは、著者を捜しているのに作品名が、あるいは出版社名が当たることです。電腦ですから区別をしません。多

撃してください。

問 Windowsはよいとして、その他はどうですか。アップルとか。

答 マックMacを使用している方から報告がありました。マックでは、自動起動しないそうです。CDにあるファイルからindex.htmlを点撃すれば動くといえます。そうすると、ほとんどの電腦環境で作動可能だと考えていいのではないのでしょうか。

問 そのほかの操作はどうなっていますか。

答 インターネットをご利用でしたら、問題はないはず。先ほどのとおり最初に目次がでできます(これがindex.htmlの内容です)。使いかた、典拠資料、序、本文、索引、あとがき、奥付などを自由に閲覧できます。また、2010年11月までの清末小説研究会ウェブサイトも丸ごと収録しました。

問 そういえば、研究会ウェブサイトもこの目次も画面が同じです。色までも同一にしたのには理由があるのですか。

答 わざわざ説明するまでもないでしょう。研究会ウェブサイトの設計を目録第4版目次にそのまま流用したにすぎません。

作の作家だと、検出結果が多すぎてかえって利用しにくいともいえます。これは紙媒体の印刷物でも同じことですが。

問 便利な側面とそうでない箇所があると。

答 電腦は融通がききません。命令されたことしか実行しないのです。たとえば、目的の漢字を探すのですがどうしても当たらない。私が点検作業中にみつけた1例はこうです。字体が異なるばあいは具合が悪い。「天靈 D0493」の漢字を指定しても見つからない。番号「D0493」から探ると「天靈」です。旧字体と新字体の違いが検索不成功の理由でした。そこは修正しておきましたが、そのほかにも不都合箇所が存在しているかもしれません。

問 日本の漢字で検索ができるとしても中国ではどうでしょう。繁体字、簡体字とありますが。

答 日本で編集刊行する目録です。日本の漢字を使用するのは当然だと考えています。アドビ・リーダーは日本漢字も使えますから問題はないでしょう。それ以外は各自で対処してください。文字化けについてはのちほど説明します。

問 検索のとき、そのほかに注意することはありますか。

答 「(劉)鉄冷」という表示があるとします。劉鉄冷では出てきません。「」)がじゃまをします。鉄冷と短くすれば当たるでしょう。そうすると劉ではない鉄冷に出会うこともあるかと。ただし、鉄冷に限っていえば実際にはそういう例はありませんでした。樹人ならば、陳、周、朱と3人が存在します。

問 樹人だから魯迅だ、と即断するのは禁物ということですね。

#### 索引の問題

問 全文検索が可能であるのはわかりました。そうすると索引は必要だったのでしょうか。縦横に検索ができることが電字版(一般には電子版)の特徴でしょう。二重手間ではないですか。

答 最後まで迷った点です。第3版について言及するなかに、間違いが多いと指摘する声がありました。確かに、ひとりで編集を行なっていますから、誤りから自由ではありません。申し訳のないことです。原因のひとつは、私の親切心があったからだと……

問 親切心とはなにでしょう。

答 索引の作成手順は、普通、本文が作成されたあとに着手すると考えます。本文にしるしをつけて、それらを採用し、まとめて配列し直す。

問 そういう順序ではないのですか。

答 私のばあいには、違います。資料の整理はデータベース用ソフトを使って行なっています。これは普通のことです。異なるのは、本文を作成すると同時に索引も作ります。そうすると作品によっては本文には出てこないけれども索引に収録するのが親切、便利だという気になるのですね。長期間にわたる作業の過程で基準が微妙にブレたのは事実ですが。

問 具体的に説明してください。

答 1例です。「S0912\*時報短篇小説(第2集)」(番号は第4版)のなかに漢字で托爾斯泰が記載されます。私は、本文にはないTOLSTOIも索引に採用しました。研究の便利を考えての

ことです。しかし、本来は存在しない単語を索引に収録するのは、不必要だといわれればそうかもしれません。

問 そのような例はいくつもありそうです。

答 そうですね。もうひとつ(番号は同じく第4版)。

H0031\*海底漫遊記(一題投海記)15回

(英)露亜尼著 海外山人訳 新小説社 光緒丙午(1906) 盧藉東訳『海底旅行』の海賊版

こちらにはJULES VERNEも索引に採用しました。厳密にいうと間違いです。しかし、その前後の並びから採取することがよいと私は判断したのでした。いらないと思われるときは、無視してください。

問 索引の記号をコピー(複写と貼りつけ)すれば、本文に跳ぶこともできて便利です。しかし、実行するとそれらしきものがないことがあります。

答 そういわれると索引は収録しなかったほうがよかったかもしれません。今後の課題にします。

問 検索速度は遅いといった方がよろしいかと。

答 結局はアドビ・リーダーの問題だと思います。私もガマンできないくらいに遅いと最初は感じました。

問 これでは電字版にした意味がないのでは。

答 本文表示の機能をもつアドビ・リーダーについて、その内部構造は私は何も知りません。利用者のひとりにすぎないのです。元になるPDFファイルを作成するソフトが同じ会社の製品だからというだけです。やってみてわかったことがひとつあります。最初に最低でも17-18回の検索を試みる。素人の推測ですが、リーダー自身は、そのあいだに別の場所で索引を作成しているらしい(違っていたらすみません)。それをすぎると一瞬にして目的の場所に飛びますから。

問 CDのままで使用していると、いつまでたっても瞬間移動は実現しませんけど。

答 試してみる価値があるのは、関連ファイルをハードディスクに複写することだと考えます。ファイルの「5.pdf」は目録本文、「6.pdf」が索引です。統合したのが「10.pdf」になります。これらを点撃すると直接操作ができます。速度をあげる近道です。私自身は、関連ファイルをハードディスクに複写して見えています。

本文の変更点など

問 第4版では、新聞小説が大幅に増補されているようです。変化のひとつですね。見た目であれば、本文に小さな変更があります。作品を**創作**と**翻訳**に分けて(マーカーによる)色づけしている。自動的に着色したのですか。

答 えっ、そんな便利なソフトがあるのですか。

問 エっ、そんな便利なソフトはないのですか。そうでしたら、色分けにしても手間のかかることで……

答 翻訳作品には番号に「\*」をつけて区別したのは第3版でも同じです。ただ、電字出版で部分的に色をつけることはそれほどむづかしくはありません。念のために着色しました。厳密にいうと創作と翻訳に2分するだけでは不十分なのです。中間に位置する作品もありますから。

問 中間といいますと、为什么呢か。

答 作品集ならば、創作と翻訳の両方を収録している書籍です。そういう書籍は、どちらに分類するのか。個別の作品にしても、創作のようであり翻訳でもあるもの。さらには、明らかに外国作品を下敷きになっているが、登場人物、舞台は中国に書き換えてある。創作を装った翻訳作品も隠れています。こちらは、研究をまたなくてはなりません。臨時に創作としましたが、問題は後まで残ります。2分したのは便宜的なものだと考えてください。

問 戯曲は小説目録に収録すべきではない。一

部でそういう意見があるようです。

答 雑誌などの「小説欄」に戯曲が掲載される。私の編集方針で、それらも収録します。ご意見があるのは知っていますが、削除しません。戯曲です、とそのまま注釈欄に記入します。不要ならば無視してほしい、といているのですがね。第4版には、阿英「晚清戯曲録」(『晚清戯曲小説目』1954/増補版1959)も追加しました。しかし、これからも増やすかどうかは考慮中です。

問 典拠資料を略号で示して[ ]と( )が混在しています。区別しているのですか。また、英文の大文字と小文字表記があります。意味が異なるのでしょうか。

答 [ ]はまとめて多くの情報を提供してくれるもの、( )は各論文の著者、あるいは情報提供者を示すつもりでした。ところが、注記作業を長く続けているとそれらの区別を忘れそうになる。カッコの違いに特別な意味はないと考えてかまいません。英文の大小文字も同じことです。

問 作品集に収録された作品は、個別に独立させたようですね。

答 新聞、雑誌掲載の作品は、1作品1項目で掲げるほかに方法はないでしょう。そうならば、作品集もバラして作品ごとに独立させる。それが当然だと考えました。ただし、不徹底であることを否定しません。しかも、現在は全文検索が可能になりました。基本的状況が変化したといっていいいでしょう。編集方針もかわるわけです。

問 典拠資料に[樽本]を明示した理由はなんでしょう。

答 もともとは私の心覚えのためです。所蔵していることを失念してしまい、2度買い、時には3度かさなることがあるからです。利用者には直接の関係はありません。ですから前の第3版では、最終的にその箇所全部を削除しました。さらに説明文にも、日本では2次資料を利用す



ることしかできない、と書きそえたのです。その結果、ある誤解を生むことになりました。その言葉通りに理解する中国の研究者がいます。これには驚きました。謙遜がすぎたのかもしれない。

問 実際はいくつかの雑誌、単行本については実物で確認しているということですね。いちいち注記していないものもある、と。

答 目録本文を見れば、ある程度実物を見ていと理解できるだろう。そう思ったのですが、違いました。しかたがありませんね。今回も、手元にある最近の版本を注記したりしなかったり。その表示も全部というわけではありません。こちら、とばしてくださるようお願いいたします。

#### 研究の流れ

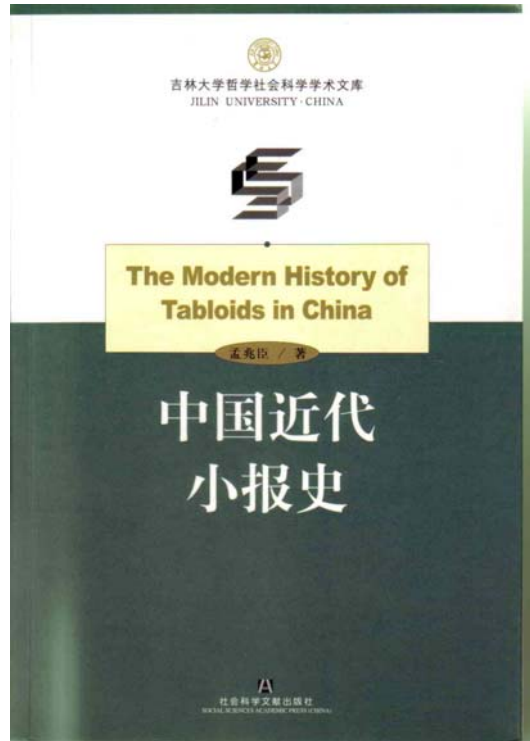
問 いま、『清末民初小説目録』を出版する理由はなにでしょうか。

答 本目録は、初版(1988)、第2版(1997)、第3版(2002。中国で刊行)と編集刊行してきました。第3版を出したあと、漠然ですが考えたものです。中国で本格的な目録が編集出版されるはずだ、と。それまで中国では、清末と民初の両方を対象にした小説目録はありませんでした。もっとも、今もありません。中国人研究者が編纂したもの、という意味ですが。不思議といえば不思議です。阿英「晚清小説目」(前出『晚清戯曲小説目』収録)が長く権威を保っていた。民初小説は、まるで存在しないかのようでした。わずか20年前までの状況です。

問 中国で開催された研究会において、誰かがなにかを発言していませんでしたか。

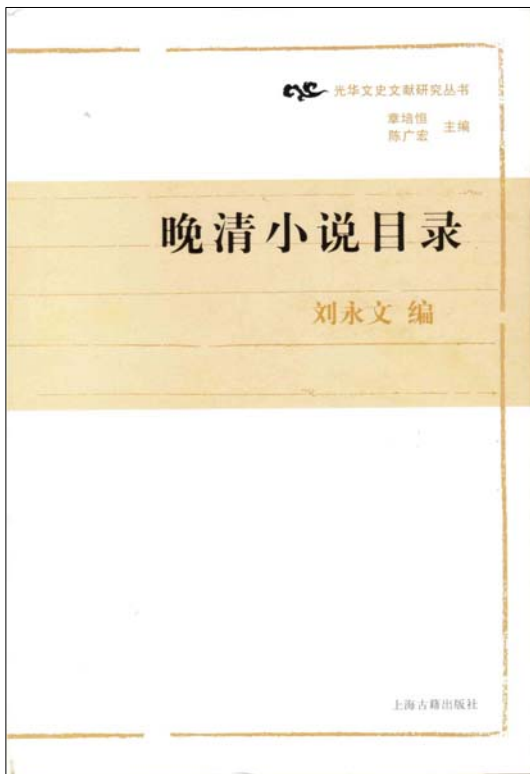
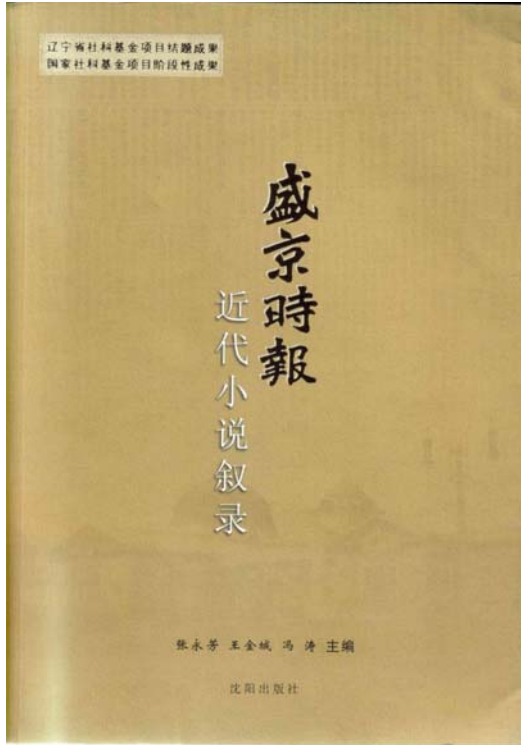
答 潘建国「近代小説的研究現状与学术空間」(『文学遺産』2006年第1期)ですか\*1。潘は、樽目録に誤りが多いと批判しました。そのうえで、真に完全で信頼できる『中国近代小説総目提要』の編纂を提案したのです。目の前にある研究、または目録などを批判するときは、自分なりのものを作成して準備しているはず。少な

くとも私はそう考えていました。ところが、潘は違います。なんの用意もしていなかった。あれから5年はたっています。音さはありません。潘の発言は無責任だといわざるをえませんね。口先だけの提案なので。行動がともなわなければ信頼を得ることはできないでしょう。ただし、理想をかたった潘提案によって、私は先入観をうえつけられたかもしれない。つぎに中国で刊行されるのは、実物を確認して編集された小説目録に違いない、と。



問 いっぽうで最近の新しい流れとして新聞小説研究があります。たとえば、孟兆臣『中国近代小報史』(2005)が出版されました。また、特定の新聞を対象にした目録も出現しています。

答 そうです。張永芳ら「《盛京時報》近代小説目」が、『清末小説』第32-33号に掲載されていることはご存じでしょう。単行本になりました。張永芳、王金城、馮濤主編『《盛京時報》近代小説叙録』(2010)です。小説内容を要約しています。こちらがもとの形なのでしょ



う。

問 時間は前後しますが、そういう流れのなかで劉永文編『晚清小説目録』(2008)が出版された、と考えるとよろしいですか。劉目録は「光華文史文獻研究叢書」の1冊だそうです。この叢書は復旦大学古籍整理研究所が編集していると書いてある。

答 書名を見たとき、潘建国の提案が実現されたのかと思いました。実物にもとづいた真に完全で信頼できる目録です。しかし、劉目録を入手してみると中身が違う。内容要約ではない、所蔵を明らかにしているわけでもない、一部を除いて創作と翻訳を分けてもいない。基本的に異なるのは、民初をはずして清末に限定しているところです。

問 ご感想をどうぞ。

答 潘提案があったあとですから、私は、劉目録が刊行されるのを心待ちにしておりました。

『晚清小説目録』という書名からして阿英の「晚清小説目」を継ぐ意図が明確です。劉目録を紹介した広告文(『古籍新書報』2008)を読むと、新聞雑誌と単行本について大規模に収集したとうたっています。そうとう大きな目録らしい。これは楽しみです。おまけに私を名指している。「単行本小説の2,593種は先人の成果を多く利用し、これは日本の学者樽本照雄の『新編増補清末民初小説目録』[第3版]に対してのとてもよい補充となる[単行本小説2593種則多利用前人成果, 是对日本学者樽本照雄《新編増補清末民初小説目録》的極好補充]」([第3版]はおぎなつた)。この文面をすなおに見れば、樽目録に対して大いに補充した、つまり増補したとしか読めません。広告の文章だとはいえ中国の研究者のことですから、「とてもよい補充」だといえ、大規模で多数で堅実で詳細で空前だと思うではありませんか。私の知らないどんな小説群があるのだろう。劉目録が具体的に教えてくれると思ったのです。

問 書評を書いていたね。

答 「清末小説目録の最新成果 劉永文編『晚清小説目録』について」(『東方』2009年5月号)です。ほかにも書評が発表されました。また、劉目録の誤りを指摘する文章もあります\*2。その指摘については、また後で述べます。

劉永文目録など

問 劉目録の内容はどのようなのでしょうか。

答 私の書いた書評と重なる部分があることをあらかじめご了承ください。新聞小説については、孟目録と同じくらいに役立ちます。そこは明記しておきます。新聞小説は、いいのです。同じように新聞小説をあつかう孟目録と内容が部分的に重複しようとも(孟目録は清末民初をこえて1948年まで、劉目録は清末のみ)、それらふたつを参照すればよいだけです。

問 問題は、単行本小説部分だと。

答 潘提言によっていただいた先入観は、劉目録に対する思いこみになりました。劉永文は実物を確認してから目録を作成した。これです。彼は説明2頁で次のように説明しています。「雑誌および新聞目録を編集するとき、私[劉永文]はできる限り原物とマイクロフィルムを閲覧した。よって先輩学者の目録に対して多くの補充になる[在編著期刊和日報目録時我尽量查閱原件和縮微膠卷，因此对前輩学者的目録多有補充]」。劉は、原物を閲覧したことを強調しているのです。

問 説明1頁の主要参考資料にも、上海図書館、北京国家図書館、復旦大学図書館が所蔵する近代雑誌、新聞の原物およびマイクロフィルム、と力説しています。また、「後記」にも書かれていますよ。博士課程で学んでいたとき、必要な授業以外は大部分の時間を上海のいくつかの図書館ですごした。あるいは、それぞれの新聞は各地の図書館に分散していて、彼はこの仕事を知識分子の肉体労働だと称していた、とか。さらに、博士研究員(ポスドク)になってから復旦大学と上海図書館の間を、上海と北京のあ

いだを奔走した、ともあります。

答 たしかに原資料を求めて東奔西走したのでしょうか。研究熱心な人に違いありません。ただ、先輩研究者は新聞小説に関心を示さなかった、と責めるのは酷だと思のです。中国の先輩研究者にかわるというわけでもなく説明すると、研究環境が以前とは異なります。ひとつをいえば、現在だからこそ新聞のマイクロフィルムも目にできる。以前は、そういう状況ではありませんでした。阿英目録がいい例です。新聞小説はほんの少ししか収録していません。それよりも、清末民初小説を研究することはタブー視される時代があった、といったほうがよしい。状況が違うとはいえ、率直に言って劉永文の資料探求にたいする情熱には頭が下がります。

問 そのうえで、『新編増補清末民初小説目録』(第3版)には誤りが多い、不足していると批判を繰り返しています。劉目録の前言2-3頁ですが。

答 具体例もあげている。北京地区の新聞小説について収録が不十分だと指摘しています。前言に6頁半も費やして樽目録から作品を選び出し、実際にはその約10倍はあるということです。自分で調査した結果にもとづいているから自信満々ですね。それにしても、外国人の編集した目録を強く批判する。ここに私は違和感をいただきました。なぜそんなに力をいれるかな。

問 劉永文の批判を注意深く読めば、それらはすべて新聞小説関連です。

答 樽目録には新聞小説が収録不足だ、と私はすでに説明しています。私が認めているにもかかわらず劉永文はそのことを重ねて批判する。そこらあたりが違和感の生じるひとつの原因だったのかもしれない。劉永文は、新聞小説を中心にして研究を進めてきたのでしょうか。実物を手にしていたからこそ自信をもって樽目録を批判したし、またそれが可能であったということです。そこで単行本小説の問題になります。



劉目録の問題点

問 劉目録単行本小説部分のどこが問題なのでしょう。

答 資料閲覧のために図書館を巡ったというのは事実だと思います。疑っているわけではありません。劉永文が強調したのは、苦労しながら実物を閲覧したことです。さらにこう書いています。「紙幅の制限により先輩学者の目録を引用するときいちいち注記することはできなかった[由於篇幅の限制, 引用前輩学者的目録時未能一一標注]」。これは参考文献が多いばあいの常套句です。逆にいえば、参照した目録の全部を注記するとページ数が増える、それほど多くの目録を参考にした、という意味です。その間にはさまって次の文章があります。「単行本小説目録に掲載した2,593部(再版小説を含む)は、先輩学者の目録を多く参照引用した[単行本小説目録所登録の2593部(包括再版的小説)則多参考、引用前輩学者的目録]」。文章の前後のつながり、文脈からして、原物を見て確認し、それにくわえて先輩学者の目録も参照した、と読みました。「先輩学者の目録」もかなりな数にのぼるらしい。なにしろ、「いちいち注記することはできなかった」とことわるくらいですから。

問 少しまとめます。先には潘提案 真に完全で信頼できる目録の作成、がありました。また、劉目録の広告では、樽目録に対してのとてもよい補充となる、があります。これらが頭のすみに残っていたということですか。

答 中国の研究者だからこそできる仕事です。図書館をめぐる歩き、新聞雑誌を閲覧した。同時に単行本も手にしていちいち確認しながら目録を作成したのだろう。劉永文がくりひろげた樽目録批判の激しさを見ても、どうしてもそう受け取る。しかし、単行本小説についていえば、実は違った。

問 どう違ったのですか。

答 期待が大きかったぶん失望もそれに見合う

ものでした。はっきりいいまして、広告文が名指しして樽目録に対して「とてもよい補充となる」というのは間違いです。方向が逆ですね。正確に書くとすれば、樽目録を参照利用した、ことばをかえれば引き写した、となるでしょう。結局のところ、樽目録に追加できる単行本作品はありませんでした。なにも教えてくれない。肩すかしをくらった感じです。また、劉永文がいう「先輩学者の目録」は複数だと思われた。問 説明1頁「主要参考資料」には、樽目録を含んで5種類があげてあります。意外と少ないようですが。

答 参照したが掲げていない資料もあるのでしよう。しかし、それらのなかで主として引用したのは樽目録からだった。そんな事実を誰が想像するのでしょうか。おまけに、不完全な引き写しです。

問 それは本当ですか。贗ディズニー、贗ドラエモン、贗ガンダムなどの遊興業界ではないですよ。本場中国の研究者が自国の小説に関して、外国人の編集した目録から引き写すというのが、今ひとつ理解しにくいです。さきの広告では樽目録について補充できる、と書いてあるではないですか。増補しているとはっきりいっています。それが虚偽だということですか。まあ、ものが目録です。記述するといっても書名、著訳者名、出版年くらいのことでしょう。限定されているのですから、偶然の一致ではないですか。

答 偶然の一致ね。都合のよいことばです。目録は誰が作成しても同じになるはずだ、といいたいのでしょうか。中国の研究者が私にむかって「事實は誰が発見しても事實にすぎない」と言ったことを思い出します。そういう考えでは研究の前進をのぞむのはむづかしい。発見者の功績を認めようとはしないのですから。独自性といってもかまいません。

問 目録は誰が作っても同じだ。これのどこが間違いなのか、もうすこし説明をおねがいします。(つづく) 罇

【注】

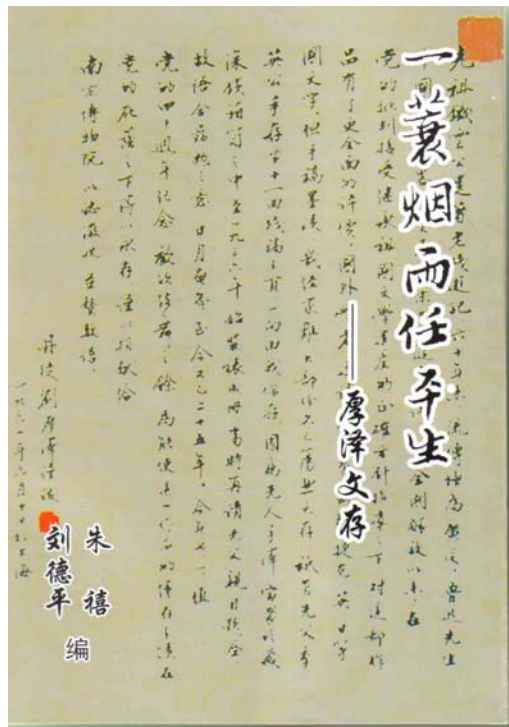
- 1) 樽本「潘建国「近代小説の研究現状与学術空間」を読む」『清末小説から』第81号 2006.4.1
- 2) 以下のとおり。  
 凌宏発「晚清小説の演進与流布 評《晚清小説目録》」『古籍新書報』第81期(総第237期) 2009.5.28  
 李慶国「劉永文編《晚清小説目録》」台湾『漢学研究』第27巻第4期(総第59号) 漢学研究中心2009.12  
 王 鑫「《晚清小説目録》指瑕」『明清小説研究』2010年第4期(総第98期) 2010発行月日不記

(樽本照雄)

- 回憶《中国近代文学大系》編纂出版經過 『出版史料』2011年第1期(新総第37期) 2011.3.25
- 吳 泰昌 辛亥文談 1 孫中山与詩 / 《魯濱孫漂流記》最早の中訳本 『出版史料』2011年第1期(新総第37期) 2011.3.25
- 左 鵬軍 『晚清小説大家：吳趸人』広州・広東人民出版社2009.12 広東歴史文化名人叢書
- 賀 根民 『中国小説觀念の近代化進程』済南・齊魯書社2010.10
- 劉鶚(劉鉄雲)原著 李欧梵導読 謝祖華故事絵図『帝国末日の山水画：老残遊記』北京・文化藝術出版社2010.4

清末小説から

- 李 慶国 清末における政治小説の考察(三) 『追手門学院大学 国際教養学部紀要』第4号2011.1
- 簡 平 『上海少年兒童報刊簡史』上海世紀出版股份有限公司少年兒童出版社2010.7
- 劉 明坤 『李涵秋小説論考』北京・人民出版社2010.6
- 沈 寂 (『新中国』) 序言 美夢成真 世界大同陸士諤 『新中国』上海古籍出版社2010.6
- 陸 貞雄 (『新中国』) 附録：伝奇祖父陸士諤 陸士諤 『新中国』上海古籍出版社2010.6
- 范 伯群 (『姚鵬雛文集』) 序言 『姚鵬雛文集』小説巻全2冊 上海世紀出版股份有限公司、上海古籍出版社2008.4
- 袁 進 『中国近代文学史』台湾・人間出版社2010.9
- 俞 子林 集近代文学精粹 是现代文学引橋



朱禧、劉德平編『一簣煙雨任平生 厚沢文存』  
 私家版 刊年不記(2011.3) 以下を収録  
 關於《老残遊記》評価問題的商榷 ……劉厚沢  
 關於《老残遊記》的資料 ……劉厚沢  
 『清末小説から』第103号は10月1日公開予定